

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	佐賀市立芙蓉中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	11
生徒数	15	24	19	0	58	

研究の概要

1. 研究主題

9年間を通して、基礎・基本を身につけさせるための個に応じた指導方法の研究
～数学科を中心にして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

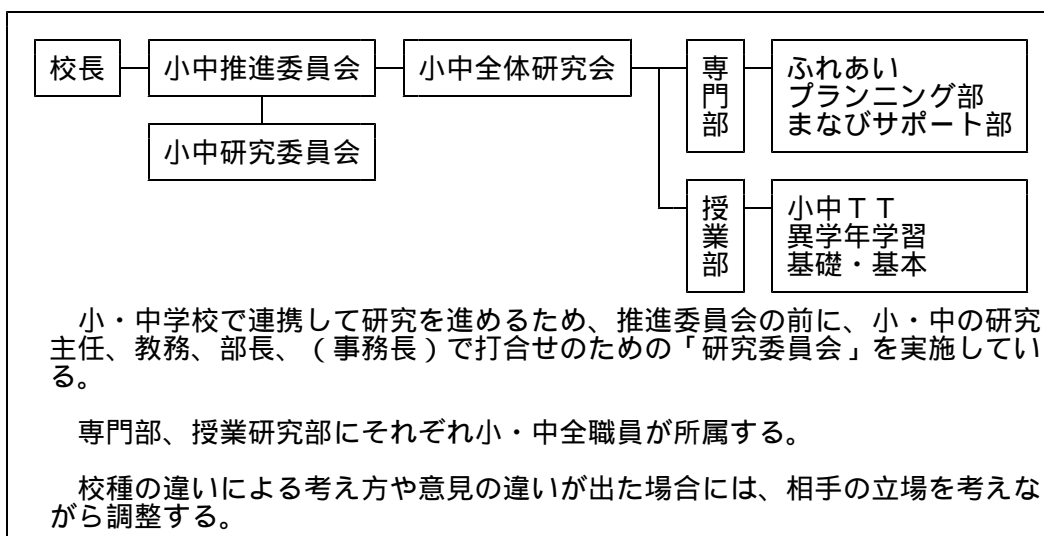
全学年・数学
 ・理解や習熟にかかる時間が個人によって差が大きい教科である。
 ・習熟度別少人数授業を生徒の希望で実施するとき、生徒自身で判断しやすい教科である。
 ・小学校と連携しながら研究を進めるうえで、系統性が強い教科である。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善についての取組</p> <p>研究の見通し（仮説） ・9年間を通した算数・数学の系統表を利用した個人カルテを利用しながら少人数指導の中で個に応じた指導の工夫をすれば、学習意欲が増し、基礎・基本の定着が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・小・中の教諭が協力し、個人カルテを利用して、学年全体の傾向をとらえる。 ・個人カルテを利用し、一人一人の学力を把握する。 ・小学校と合同で授業研究会を実施し、お互いの指導力向上を図るために交流をする。 ・単元別に生徒の希望により、少人数授業をする。 ・発表力をつけるために、小・中9年間を通した活動「フレンズタイム」を毎週金曜日に実施する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善についての取組</p> <p>研究の見通し（仮説） ・9年間を通した算数・数学の系統表を利用し、不十分な既習内容に対して補充的学習をすればより基礎・基本の定着が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・少人数授業の組み方や指導方法、また、評価方法を工夫する。 ・個人カルテを利用して一人一人の習熟度を把握し、単元の学習の前に補充的学習を実施する方法や内容について工夫する。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

個人カルテを利用し、生徒一人一人に対する指導の方針を確認しながら授業を進めることができた。

- ・系統表は、「算数・数学」「国語」「理科」を作成した。
- ・「算数・数学」「国語」の系統表を個人カルテとして利用した。
- ・系統表に入学年度と氏名を記入する欄を設け、9年間使用する個人カルテとする。学年ごとに「おおむね到達できている」と判断した場合、ピンクのマーカーを付ける。前回のチェックで印が付いていない項目については、「おおむね到達できている」と判断した時点で黄色のマーカーを付ける。
- ・年度当初に、印が付いていない生徒数を調べ、指導の参考にした。

< 「算数・数学」系統表（個人カルテ）の一部 >

小学校 6年	<p>< 整数の性質 > ・倍数、公倍数、最小公倍数 ・約数、公約数、最大公約数</p> <p>・約分、通分、分数の大小 ・割合、時間を表す分数</p>	<p>< 計算の見積もり > ・概数を使った積商の見積もり</p>
		<p>< 異分母分数の加減 > ・異分母分数の加法と減法</p> <p>< 分数の乗法除法 > ・分数の乗法・除法の意味と計算の仕方</p>
中学校 1年	<p>< 正の数・負の数 > 正の数・負の数で表すこと、正の数・負の数の大小 正の数・負の数の加減乗除</p>	<p>< 文字の式 > 数量を文字で表すこと、文字の式を書くときの約束 式の値、式の計算、関係を表す式</p>
	<p>< 方程式 > 方程式とその解、等式の性質と方程式 方程式の解き方、方程式の利用</p>	
中		<p>< 式の計算 ></p>

小学校と連携をする中で、各単元の導入などで小学校での学習と関連づけながら授業をすることができた。また、小学校でのきめ細やかな授業を参考に、多くの生徒の考えを発表させる手だてとしてホワイトボードを利用したり、同じ内容の発表でも複数の生徒に発表させたりすることで、生徒は多くの友達の考えを知ることができ、興味や関心をもたせることができた。

・授業研究会

- ・平成15年 6月 4日 小1年算数科授業研究会<基礎・基本>
- ・平成15年 6月25日 小6年算数科授業研究会<小・中TT>
- ・平成15年 7月 1日 小4・中3選択音楽授業研究会<異学年学習>
- ・平成15年11月28日 小・中合同研究発表会(小・中全職員が公開授業)
- ・平成16年 2月 5日 小学校授業研究会
- ・平成16年 2月19日 中学校授業研究会
- ・小・中TT・・・小・中学校の教師がTTで授業をする。
 - ・算数：小5・小6で18時間
 - ・国語：中1・中3で12時間
 - ・理科：小6で3時間
- ・異学年学習・・・小・中学校の児童生徒が合同で授業を受ける。
(小・中学校の教師がTTで授業をする。)
 - ・音楽：小4と中3選択で8時間
 - ・体育：小5と中3選択で5時間

全学年数学科で、単元別に生徒の希望で習熟度別少人数授業を行うことにより、ほとんどの生徒が意欲的に授業を受けることができた。各単元の導入部分では、TT授業を行い、その単元全体についてある程度見通しが立ったところで希望を取る。また、単元の途中でコースを変更したいときは、教師と相談をして移動することができるようにした。

小・中共通して毎週金曜日の朝の15分間に「フレンズタイム」を実施し、人前でも大きな声で発表することができるようになってきた。

小学校1年生から小学校6年生まで、「ぐりとぐらのカルタ」や「いるはカルタ」、中学校では「百人一首」を覚えて、大きな声で言えるようにする。一人で覚え、友達同士で発表し合い、最後は先生の前で大きな声で言う。意欲を高めるために、小・中合同の研究発表会を実施した。また、中学校では毎学期百人一首大会を実施した。

2. 今後の課題

少人数授業実施時における評価方法について

補足的な学習の効果的な実施方法や内容について

学力把握のための学校としての取組

NRT診断的学力検査、CRT観点別到達度学力検査(各年1回)

数学に対する意識調査(年2回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年11月28日(金)小・中合同の研究発表会
 - ・2年生数学：図形と合同(二等辺三角形)<少人数>
 - ・6年生算数：比例 <小・中教師によるTT> など

- 平成16年 2月19日(木)授業研究会
 - ・2年生数学：図形と合同(平行四边形) <少人数>



- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無